

第9回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時: 2018年7月24日(火) 10時00分～12時00分
2. 場 所: 中部電力本店内会議室
3. 出席者: <社外委員>小林委員、勝治委員※、服部委員、松下委員、横山委員
<社内委員>勝野社長、増田副社長、片岡副社長、倉田副社長、小野田副社長
三澤専務
(経営考査室長、広報室長、原子力部長、コーポレート本部部長等同席)

4. 議事要旨

「これまでのアドバイザーボード・安全向上会議での主なご意見・指示」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「新ロードマップに対応したアクションプランの作成」について当社より説明。多岐に渡る議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 原子力部門の取り組みについて

- ヒューマンエラー対策について、コミュニケーションやチームワーク等のノンテクニカルスキル訓練を導入したことは非常に良い。スキルの向上が目に見えるテクニカルスキルと違い、ノンテクニカルスキルは目に見えにくく、また、人間の考え方や行動を少しずつ変えていくものであるため、相当時間がかかる。地道にこつこつやっていくことが重要である。
- ノンテクニカルスキルの進捗状況の確認には、主観的な報告ができるヒヤリハット報告制度を活用してはどうか。
- リーダーシップ教育においては、非常時やトラブル発生時にいかにリーダーシップを発揮できるかが一番の課題である。リーダーの教育は、管理職になってからでは遅く、管理職になる前に教育を実施することが大事である。
- 訓練の仕方に関しては、受講者が納得感を高め、理解を深めることができるよう、対話型で議論を重視する方式について検討してはどうか。
- コミュニケーションにおいては、一方的な言い方ではなく、問いかけが重要である。チュートリアル教育（講師が説明するだけでなく、問いかけ、受講者に考えさせる教育方法）の考え方を取り入れてはどうか。
- 原子力部門におけるリスクマネジメントの取り組みについて、作業者に「なぜそのようなルールとなっているのか」を考えさせるためには、上長からの問いかけに加えて、日常の作業の中で作業者が考える仕組みを取り入れることを検討してはどうか。
- 稼働停止が継続している状況が、現場の緊張感を低下させる可能性を危惧している。シミュレーション等による訓練の際には、人間は、臨場感がないと緊張感を保てないという点に留意して取り組む必要がある。
- 一人ひとりが、自ら気づき、改善する行動姿勢を高めるためには、仲間、同僚、チームの力が大きいと思っている。同じ目線のスタッフの中で、言い合えるか、指摘しやすい体制か、その信頼関係が大きいと思う。

(2) 経営考査室の取り組みについて

- 監査では、見るべき視点、視座を定め、焦点を定めて何度も見ることが、現場の課題の発見につながる。
- 監査において問題が見つかった場合は、監査する側とされる側と一緒に考えていこうという取り組みも大切である。見つかった問題を表に出せるような組織・体制づくりが大切である。

(3) 広報部門の取り組みについて

- 広報室制作の対話ツールである、「放射線ってなに？」(DVD)と「エネルギーを語ろう ene go to」(リーフレット)は、良くできている。教育教材として使うなど幅広い活用を検討してはどうか。

(4) 新ロードマップに対応したアクションプランの作成について

- ロードマップについて、現場の一人ひとりが、自分の仕事とどのようにつながっているのかを認識できるようにすべきである。

※吉川委員の退任に伴い、2018年7月1付で社外委員に就任

〔 勝治 秀行 (しょうじ ひでゆき) 〕
〔 東海旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長 鉄道事業本部担当、安全部門統括担当 〕

以 上